

温泉施設爆発

開業前「惨事の可能性」

調査会社指摘 親会社など搜索

東京都渋谷区の女性専用温泉施設「シエスペ」で起きた爆発事故で、施設の建築主、ユニマット不動産（東京・港）が開業前、天然ガスの濃度を測定した調査会社から、適切な対策を取らなければ「メタンガスによる爆発が起き、大惨事になる可能性もある」という趣意の指摘を受けていたことが二十六日、関係者の話で分かった。

警視庁捜査一課は同日、ガスの危険性をどの程度伝えていたかなどを聞いて詳しく調べる。

午後、開業当初、施設を運営していたユニマット（同）など十カ所コスモ（同）など十カ所を業務上過失致死容疑で家宅捜索した。同社の子会社で現在の運営会社、ユニマットヒューティー（同）などはすでに捜索しており、両社にユニマット不動産が濃度が掘削穴の中だ」と。

不動産などは住民説明会で、「メタンガスの可燃域は五一・五%」として引火の可能性がないと強調。運営にあたっては「ガス検知器によるチェックを欠かさず行い、安全確認に努める」と説明している。実際に施設にガス検知器は設置されず、濃度の測定も開業後は一度も行われなかつたとされる。

の分離・排出装置の保守点検もほとんど行われていなかつたとみている。一方、二十六日の捜査では、施設を設計・施工した大成建設の子会社で設備の設置や点検の状況などを調べる。



夕刊

6月26日
(火曜日)

23面

渋谷スパ爆発事故 1週間

「ガス爆発の危険性も指摘した。なぜ現在の運営会社に伝わらなかったのか」。営業開始の約一年前、温泉掘削後と施設所有者「(株)マシテ不動産」(鹿児島)からガス爆発度検知を依頼された千葉県内の余社の幹部は顔をしかめ、「結果は安全手一ひねる。結果は安全手一タ」として出頭しなくなってしまった。「われわれ作業中のガス濃度をチェックしただけ。営業後の抜栓も保証したように利用された」

「シェ・スペ」の温泉くみ上げ施設で3人が死亡した爆発事故から26日で1週間。施設を所有・運営するユニマットグループの安全意識の低さが浮き彫りになっている。天然ガスの危険性を認識しながら、なぜ検知を行っていないかたのか。警視庁はこの日午後、運営会社の親会社「ユーマット・コスモ」(港区)やガス分離器設置業者など関係の社を一斉捜索し、業務上過失致死致傷で捜査を進める。

部」も「検査中のため不確かなことは答へられない」と繰り返す。対策本部の構成メンバーすら「答へられない」という。誰の判断で検知器設置が見送られたかは分かつていない。

発芽は、源泉をガスと分離するセパレーターを用いて上昇した湯をためる源泉槽が設置された施設地下的部屋で発生したものである。

ガスは配管や換気扇を通じて屋外に排出される。

出組みになつていた。配管の亀裂からガスが室内に漏れだし、換気も不十分になつたうえ、制御盤の火花などによつて引火した可能性がある。配管の破損が激しく、捜査は破損時期を調べる。

今回の事故では、完成した温泉施設の安全対策の不備もクローズアップされた。環境省は法改正も念頭に対策強化を検討、総務省消防庁も全国の施設の実態調査に乗じて出した。

This high-contrast, black-and-white aerial photograph captures a massive industrial complex, possibly a refinery or chemical plant. The image is characterized by its stark, binary tones, where most details are either solid black or solid white due to the high contrast settings. The facility features a dense network of thick, dark lines representing industrial piping and structures. Several large, rectangular tanks are visible, some with internal markings. A prominent feature is a large, dark, angular structure in the upper right quadrant, which could be a cooling tower or a large storage tank. The surrounding terrain is mostly white, suggesting a mix of paved areas and open land. In the lower right foreground, there are several small, bright white spots that might be vehicles or small buildings. The overall composition is highly abstract due to the lack of mid-tones.

爆発事故から1週間たち屋根にシートがかけられた温泉施設「シエスパ」の温泉くみ上げ施設=東京都渋谷区松濱で26日午前9時34分、本社へりから丸山博撮影

「貴社は運営されるのか」とたずねた。「創業開始の約一年前、爆破報復後に施設所有者「ヨーマット不動産」(鹿児島市)からガス爆破検知装置がれた千葉県内の会社の幹部は首をひねる。結果は安全第一主義だった。」「われは作業中のガス漏洩を察知するシステム」ただけ。創業後の資金も保証したものが利用された」といふのがアリ。

「ヨーロッパ会社」を経て、昨年秋に「ヨーロッパビューティーアンドスペ」に引き継がれた。

川上昇弘、佐々木洋

設地下の部屋で発生したとみられる。

も念頭に対策強化を検討、総務省消防庁も全国の施設の実態調査に乗じて出した。

発達は、源泉をガスと分離するセパレーター、やくみせんたる湯をため

誤は破損時期を調べる。

「知られない」という。誰の判断で検知器設置が見送られたかが分からず、

の火花などによって引火した可能性がある。配管の破損が激しく、検査

9社検索「検知の責任」どこに

ガスの危険 伝わらす

MAINICHI

新每開日

This high-contrast, black-and-white aerial photograph captures a massive industrial complex, possibly a refinery or chemical plant. The image is characterized by its stark, binary tones, where most details are either solid black or solid white due to the high contrast settings. The facility features a dense network of thick, dark pipes that crisscross the area, forming a complex web. Several large, dark rectangular structures, which could be storage tanks or processing units, are scattered throughout the site. In the lower portion of the image, there are several smaller, lighter-colored buildings or sheds. The terrain around the facility appears relatively flat and open, with some darker, textured areas that might represent soil or paved ground. The overall impression is one of a large-scale industrial operation viewed from a high vantage point.

ガス危険性認識か



ユーニット不動産（新宿区）は、2007年6月20日、東京都渋谷区の女性専用温泉施設「エスバ」別棟で、女性3人が死んだ爆発事故が発生してから、二十六日で検査を進めていく。

ユーニット
施工時

「検知器で安全確認」 住民への約束守らず

下三階のみ上部施設のガス漏洩を時間ごとに検知器で確認している。施設間の通じて出や別棟の方々を対象に、「エスバ」事故対策部は「燃焼ガスが入る」と言葉を「」すばかりだ。

東京都渋谷区の女性専用温泉施設「エスバ」別棟で、女性3人が死んだ爆発事故が発生してから、二十六日で検査を進めていく。

渋谷エスバ爆発1週間

で一週間。着火原因は、エスバの開発から運営まで携わったユーニットグループ内で天然ガスへの燃焼が当初の認識されなかつた可能性が出てきた。回路などは、業務上過失致死傷容疑

から起訴まで携わったユーニットグループ内で天然ガスへの燃焼が当初の認識されなかつた可能性が出てきた。回路などは、業務上過失致死傷容疑

のユーニット提供サービス網開通で運営本部が移り、掘削業者の鉱研工業（東京）が「運営」の田代ビルシステム（千代田区）とともに「運営」の田代ビルシステム（千代田区）とサンケイ（品川区）が、一〇〇六年一月、中〇五年三月、井戸の近隣住民に文書で説明に開業。同四月から三月、ガス調査で地上近くにしてしまったといふ。ただ、同不動産が保育園（アメトロペル）（新宿区）、メタンガスが2.5%しか、実際にはガス、シガサが運営する温泉（新宿区）、「同十一月にさほどまることを経て、同四月、検知器は設置されており、燃焼（ガス）」（昨年七月）の営業は既に停止している。設計、施工を掛けず、グループ内でガスに月に開業（新宿区）は、地元と誤解。同様に、

監視室の調べで、SH

ス別棟の地下一階におり、200万円の原状に天

然火で設置された雨水

管にガスが充満、制御

装置モーターから出た火

花火が引火して爆発し

た疑いがある。施設は高

度の燃焼の一角にあり、

燃焼対策で床面状態に

いたとしても、「ガス

りをかい地下に燃焼が附

かれたという。

回路の調べで、サンケ

イの担当者は「前日午後

に点検した際には、底水

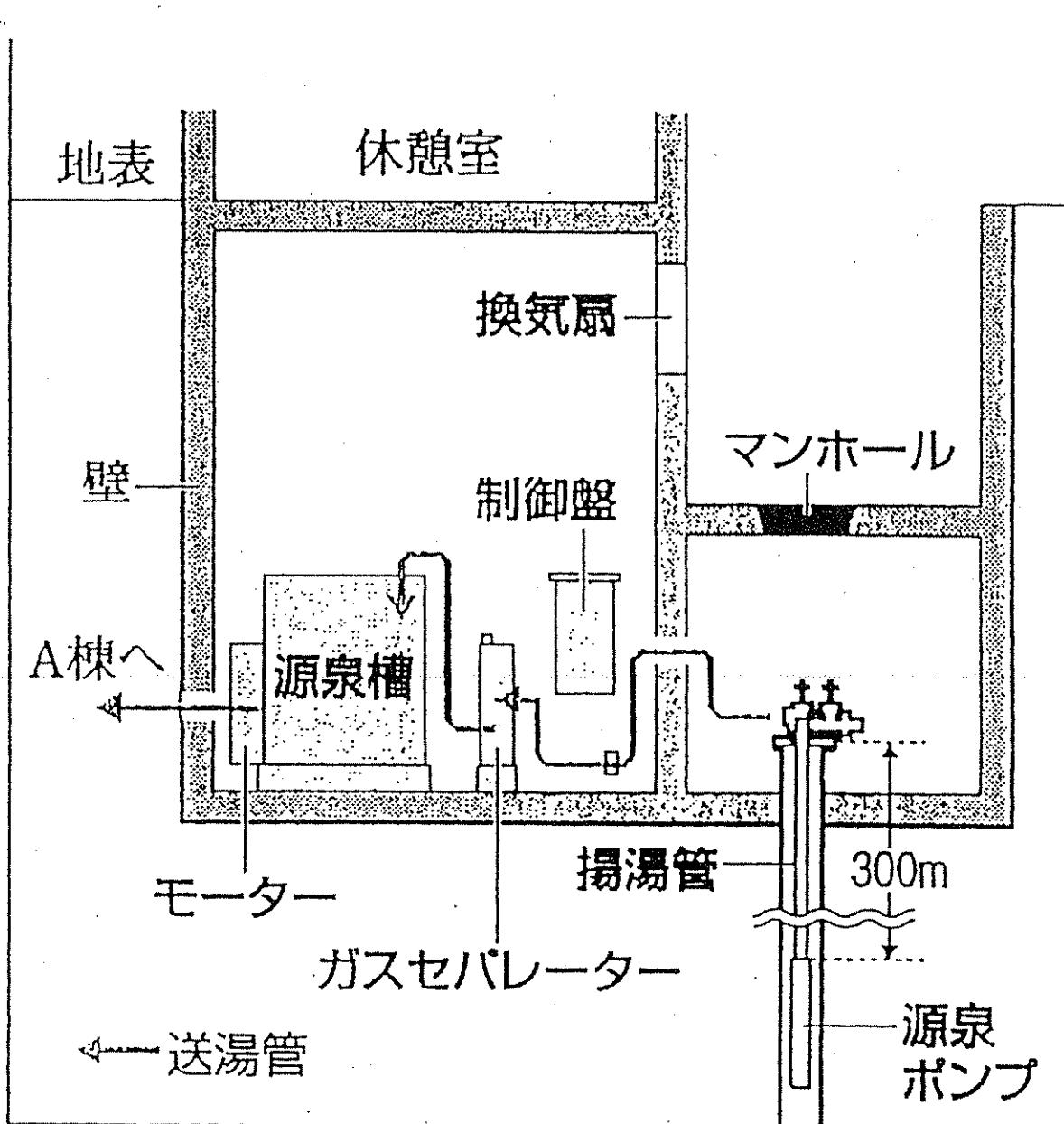
に燃焼が見えた」と説明

している。ただ、回路が保育

園（アメトロペル）（新宿区）

で、同十一月にさほどまることを経て、同四月、検知器は設置されており、燃焼（ガス）」（昨年七月）の営業は既に停止している。設計、施工を掛けず、グループ内でガスに月に開業（新宿区）は、地元と誤解。同様に、

シェスパ温泉汲み上げ施設見取り図



—新聞記事掲載より—

(6月25日 朝日新聞)